



お客様情報



富士ソフト株式会社 秋葉原オフィス

富士ソフト株式会社

●本社所在地

〒231-8008 神奈川県横浜市中区桜木町1-1
<http://www.fsi.co.jp/>

1970年に独立系ソフトウェア開発会社としてスタート。グループ全体で1万人を超える技術者集団による高い技術力とそれに裏打ちされた提案力を価値あるサービスの源泉として、顧客にとって最適なパートナーであり続けるための努力を重ねている。通信インフラ、社会インフラ、機械制御などの組み込み系ソフトウェア開発の他、業務系ソフトウェア開発やネットビジネスに至るまで、幅広くソリューションを提供。

富士ソフト株式会社

既存のMDM製品をIBM MaaS360にリプレース
 モバイル・デバイス管理の13の課題を解決し、
 タブレット端末の適切な管理を実現

富士ソフト株式会社（以下、富士ソフト）は、2012年から自社開発のペーパーレスシステム、moreNOTE搭載のタブレット端末で社内会議を行っています。タブレット端末利用開始時に併せてモバイル・デバイス管理（MDM）製品を導入しましたが、端末のユーザーが煩雑な操作を行わなければならない、プログラムの自動配信ができないなどのさまざまな課題を抱えていました。新しいMDM製品選定のためのトライアルで、IBM® MaaS360はこれまでのMDM製品では対応できなかった13の課題をすべて解決することができました。2015年7月、IBM MaaS360が導入されて、社内で利用されているタブレット端末はもれなく管理され、ユーザーは安心して端末を使うことができるようになり、運用側の負荷の大幅な削減も実現しました。2016年度中にはIBM MaaS360の利用ライセンス数は4,000に達する見込みです。

タブレット端末管理用に導入した MDM製品の運用上の問題点が判明

富士ソフトの最近の注力分野について、富士ソフト 執行役員 技術本部 副本部長 ITマネジメント部長である布目 暢之氏は「クラウドやロボット、モバイルなどの分野で蓄積してきた技術力を活かして、より付加価値の高い製品、サービスを提供しています。特に、ドキュメントや動画などをサーバーで管理し、タブレット端末から簡単かつ安全に閲覧できるサービス、moreNOTEは、お客様に好評です。富士ソフト社内でも利用しており、社内会議はmoreNOTEをインストールしたタブレット端末で行い、ペーパーレス化しています」と語ります。

富士ソフトでは2012年に管理職1,000人にiPadを配布し、それまでのノートPCに代わって、iPadを会議で使うようにしました。その際、MDM製品も導入して、社内会議を行うための環境を整備しました。MDM製品の利用は管理職1,000人からスタートし、2013年には1,500ライセンス余りになりました。当時のMDM製品によるタブレット端末管理について、富士ソフト 技術本部 ITマネジメント部 情報システム室 主任 柴崎 貴弘氏は「導入したMDM製品はインストールから設定、デバイスでの運用がユーザーに任されていました。App StoreからMDM製品をダウンロードして、インストールするのですが、ダウンロードしただけではセットアップは完了しません。ところがダウンロードしただけで使えるようになると考えていた人がかなりいて、MDM製品が動作しなかったため、情報システム室では端末管理が適切に行えないという危機感を持つようになったのです」と振り返ります。



事例概要

課題

- 従来のMDM製品が抱えていた、端末のユーザーが煩雑な操作を行わなければならない、プログラムの自動配信ができないなどの13の課題の解決

ソリューション

- IBM MaaS360

効果

- 端末ユーザーが煩雑な操作を行わなくても、端末の適切な管理が可能
- サーバーの運用が不要になり、運用管理業務の負荷が大幅に軽減

クラウド・サービスですぐに使用できて、 13の課題を解決したIBM MaaS360を選定

実際にMDM製品の運用を始めて、最初に問題になったのはAppleのPush証明書の更新をユーザー自身が行わなければならないことでした。証明書が更新できていないユーザーはアプリのダウンロードができず、結果的にユーザーの間で使用しているアプリのバージョンがバラバラになってしまいました。その他にもさまざまな問題が明らかになり、富士ソフトでは2015年4月頃から課題を整理し、それらを解決できる新しいMDMソリューションの検討を始めました。そのために、複数の製品を候補として、多数のユーザーが利用することから、導入のしやすさや使いやすさを主眼に置いて、およそ2カ月間のトライアルを行いました。比較検討の結果、2015年7月、モバイル管理ソリューション、IBM MaaS360を導入することにしました。布目氏は「IBMにIBM MaaS360のテスト運用を依頼したところ、1週間後にはテストを開始することができました。クラウド・サービスのため管理負荷もなく、運用側としてはとても楽に使えたと評価しました」と話します。トライアル実施前、富士ソフトではそれまで使っていたMDM製品の課題を13項目にまとめていました。トライアルでは、IBM MaaS360で各課題の解決に取り組みました。IBMのテクニカル担当者から明確な解決方法の提示や支援もあり、検証を行った結果、すべての課題がIBM MaaS360で解決できるという結論を得ることができました。13の課題と解決方法は下表のとおりです。

これまでのMDM製品の課題とIBM MaaS360による解決方法

1) moreNOTEのプログラムが自動配信できない。ユーザーによるダウンロード操作が必要。 解決方法 App Storeを利用すると同様にインストールすることができる。	8) moreNOTEなどのモジュール一斉配布時にサーバー負荷が増加、リソースの追加が必要。 解決方法 クラウド・サービスのため、対応不要。
2) サインインに3回失敗すると、アカウントロックされ、管理者に連絡して解除してもらう必要がある。 解決方法 失敗回数を変更する設定が可能で、アカウントロックの頻度が減少。	9) デバイスの新型モデルが発売されると、サーバー側にカタログ登録が必要になるため、モデルが正確に取得できない端末が存在する。 解決方法 クラウド・サービスのため、対応不要。
3) AppleのPush証明書の更新期限が切れると、ユーザーの煩雑な操作が必要。 解決方法 ユーザーの操作は不要。	10) サーバーに登録された端末をグループに分けて管理できない。 解決方法 グループ設定が可能。
4) 証明書のインストールや機能制限ポリシーの適用に、2～3時間ほどかかる。 解決方法 20～30分間ほどに短縮。	11) CSVファイルのインポート設定がなく、一括登録ができない。 解決方法 CSV登録が可能。
5) 証明書のインストールや機能制限ポリシーの適用が行われていないデバイスの把握ができない。 解決方法 デバイスの状態をサーバー側で確認できるため、ユーザーへの牽制が可能。	12) 追加、削除、情報取得などデバイスの一括処理が行えない。 解決方法 CSV登録で可能。
6) Windows Phoneに対応していない。 解決方法 対応可能。	13) セキュリティ面で問題があるデバイスの警告など管理機能が弱い。 解決方法 長期に接続されていないデバイスの確認も管理画面で行うことが可能。
7) サーバー側ソフトウェアの更新時に、再プロビジョニングが必要。 解決方法 クラウド・サービスのため、対応不要。	

“IBM MaaS360のテスト運用を依頼したところ、1週間後にはテストを開始することができました。クラウドサービスのため管理負荷もなく、運用側としてはとても楽に使えると評価しました”



執行役員
技術本部 副本部長
ITマネジメント部長
布目 暢之氏

“IBM MaaS360導入後は、アプリが自動でバージョンアップされるため、バージョンアップを意識せずに使えるようになり、タブレット端末を敬遠していた社員も使い始めるなど利用者が増えています”



技術本部
ITマネジメント部
情報システム室 主任
柴崎 貴弘氏

ユーザーの煩雑な操作なしで適切な端末管理が可能に 運用側のサーバー運用負荷も解消

富士ソフトではIBM MaaS360によって、以前利用していたMDM製品の課題をすべて解決することができました。その結果、トライアルの際には400ユーザーだったIBM MaaS360のライセンス数は2015年12月に1,800に増加、2016年7月には3,450に達しています。

IBM MaaS360導入後は、AppleのPush証明書の更新期限が切れた場合でも、ユーザー全員がプロファイルの削除、サインイン、プロファイルの再インストールという一連の操作を行う必要がなくなりました。その操作はユーザー1人あたり5分程度ですが、社内のiPadユーザー数が多いため、大きな工数削減効果になります。また、IBM MaaS360の利用を始める際には、IBM MaaS360側からユーザーに対して案内メールを送ります。アプリをダウンロードすれば自動的に設定ができるため、ユーザー側で操作する必要がなく、セットアップ漏れがなくなりました。すべての端末が適切に管理されて、万一、端末を紛失しても、確実にリモートワイプでデータを消去できるため、情報漏えいを完全に防ぐことができます。

「moreNOTEも年に何回かバージョンアップされます。今までユーザーは自分でアプリをバージョンアップしなければならないため、バージョンの煩わしさを感じながら使っていました。IBM MaaS360導入後は、アプリが自動でバージョンアップされるため、バージョンアップを意識せずに使えるようになり、タブレット端末を敬遠していた社員も使い始めるなど利用者が増えています」と柴崎氏は話します。

一方、運用側にとっての導入効果も明確です。MDM用サーバーは常時95%以上で稼働していたため、moreNOTEなどのモジュール一斉配布時にはリソースの一時的な追加が必要だったり、サーバーへのセキュリティ・パッチの適用などの運用管理を行わなければならいままでしたが、IBM MaaS360はクラウド・サー

IBM MaaS360によるモバイル・デバイス管理



利用者のメリット

- 必要なアプリのインストールが簡単
- アプリのバージョンを意識せずに利用できる（自動でバージョンアップ）

管理者のメリット

- IBM MaaS360の利用が徹底される
- アプリのバージョン管理ができる
- 大容量のアプリも配信できる
- サーバーの運用管理が不要
- 利用者からの問い合わせが減少



左から布目氏、柴崎氏

ビスであるため、サーバーの運用管理が一切不要になりました。また、ユーザーがサインインに失敗して、アカウントロックがかかると、運用側でのロック解除が必要になります。今まではその問い合わせとロック解除を要請する電話が1日に10件程度ありましたが、今はほとんどなくなりました。これによって、運用負荷の大幅な軽減が実現しました。

他の社内認定ソフトもIBM MaaS360の管理下に セキュリティー・レベルのさらなる向上を目指す

富士ソフトでは今後、IBM MaaS360のライセンス数をさらに増やして、デバイスを完全に管理すると共に、増加している社内認定ソフトウェアもIBM MaaS360の管理下において、セキュリティーを高めていく考えです。IBM MaaS360の今後の活用について、布目氏は「当社は今後さらに、タブレット端末の利用を増やす予定です。現在、IBM MaaS360のライセンス数は3,450ですが、社内でネットワークに接続する場合には、IBM MaaS360のインストールを義務付けていますので、2016年中にはライセンス数は4,000を超え、さらに拡大していきます」と話します。富士ソフトではアカウント申請の自動化など、業務の効率化を積極的に進めています。その中で、IBM MaaS360が申請を自動的に拾い上げ、ユーザーに案内メールを出すような自動化やIBM MaaS360で管理している情報のファイルでの提供など運用管理の高度化を図りたいと考えていて、今後のIBM MaaS360の機能の高度化に大きな期待を寄せています。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2016

All Rights Reserved

09-16 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.comおよびMaaS360は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

WindowsはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

moreNOTEは、富士ソフトの登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2016年9月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談いただくか、以下のWebサイトをご覧ください。

ibm.com/security/jp